

令和3年度 学 校 総 合 評 価

1 今年度の重点目標に対する総合評価

重点課題は、学校の現状を踏まえ5つの分掌でそれぞれ設定し、取り組みを行ってきた。

各重点課題についての取組状況や評価の詳細は、アクションプランに示したとおりである。今後、さらなる指導の改善や生徒の意欲向上を目指して努力していきたい。

互見授業後の教科別校内研修会の参加については、教員の意識が高く、目標を大きく上回る結果が得られた。資格取得では、卒業時までには2種類以上の資格検定取得率100%の目標は達成できなかった。ジュニアマイスター顕彰制度については、計画的な補習の実施により目標を達成することができた。

年間の無遅刻生徒の割合を向上させることについて、全教職員による登校指導を行った。また、遅刻は社会的に信用を失う行為だと論じ、常習者には保護者への連絡を行い、家庭の協力を求めた。さらに個別面接を実施して、きめ細かい指導を行った。

3年生の進路希望の達成度については、計画的・継続的な進路指導の確立を進める必要があり、1年生の早い段階から進路に関する意識を高め、進路を学校生活の目標となるように働きかけたい。

部活動においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、体育系、文化系、工学系にかかわらず活動時間が制限された。どの部活動もモチベーションを維持することに苦労したと思われる。このような状況の中、アーチェリー部3年生 八幡遙真さんがアーチェリー世界ユース選手権混合団体で準優勝したことは特筆すべき出来事であり、大いに全校生徒の励みになった。

規則正しい生活リズムの定着という観点から、朝食摂取状況の悪い生徒には個別指導を行った。また、保健室通信や生徒保健委員会広報誌「わかば」を通して保護者・生徒に朝食摂取の重要性について啓発するなど、積極的に働きかけを行うことができた。

2 次年度へ向けての課題と方策

学習活動について、今年度は、教員がICTを活用して授業を行うことを主な狙いとしたが、来年度は生徒がICTを活用し、主体的・対話的に学習に取り組むことができるように授業改善を図っていきたい。さらに、今年度の状況分析や改善のための方策等について再検討して来年度の成果につなげることはもちろん、指導する教員側も分かりやすく取り組みやすい目標設定を考えていきたい。

学校生活については、他の分掌との情報交換やきめの細かい個別指導等を通して、遅刻回数の減少、朝食摂取率向上を図り、好ましい生活習慣を確立させたい。

進路指導の充実では、早い段階から進路に関する意識を高める働きかけを増やし、計画的・継続的な進路指導の確立を進めるとともに、進路を学校生活の目標となるように位置付けしたい。

部活動については、新型コロナウイルス感染症拡大のため、どの部活動の大会も大きく制約を受け、活動時間も大きく制限を受けている現状であるが、生徒の積極的な活動を支援していきたい。

(様式5)

令和3年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 1 -			
重点項目	学習活動		
重点課題	生徒が主体的・対話的に参加し学ぶことができる授業を目指した教員研修の推進と、資格取得に向け生徒が意欲的に学習するような指導方法の研究推進		
現 状	・基礎的な学力が身に付いていない、自ら学ぼうとする態度が見られない生徒が増える傾向にあり、授業をはじめとした日々の学習はもちろん、資格・検定等に意欲的に取り組まない傾向がある。 ・意欲関心をもたせる授業の研究や、資格・検定取得の学習をより魅力的かつ効果的に行う方法を研究・実践し、生徒の学習意欲を喚起する必要がある。		
達成目標	①ICTを活用した指導力向上及び教育内容の充実を目的とした互見授業を実施し、教科別等の校内研修会に参加した教員の割合	②資格や検定、2種類以上の取得率	③ジュニアマイスター顕彰制度によるシルバー以上の取得率
	70%以上	卒業時まで100%	卒業時まで15%以上
方 策	・ICT教育推進委員会で校内研修計画の企画・立案をし、多くの教員が参加するよう各教科へ働きかけをするとともに、開催・参加しやすい環境を作る。 ・生徒に資格・検定の案内や年間計画を配布し、ジュニアマイスターポイントの取得状況を知らせ、資格・検定の取得意欲を高めさせる。 ・日々の学習を困難に感じている生徒や、資格取得に向けての学習ができない生徒等を把握し、原因や問題点を見いだし適切な助言や補習等の支援を行う。		
達 成 度	・教頭、教諭、実習助手48名中、43名(89.6%)が教科別研修会に参加した。また、ICTを活用した互見授業については、延べ81件であった。 ・3年生157名のうち140名(89.2%)が資格検定2種類以上取得した。 ・3年生157名のうち24名(15.3%)がジュニアマイスターシルバー以上(ゴールドは8名)取得した。		
具体的な取組状況	・互見授業の集中実施期間を11/1～12に設定し、ICTを活用した授業を中心に授業を公開した。そして、各教科では公開授業のうちの一つ以上を研究授業とし、実施後に研修会を開き、意見交換しながら授業研究を行った。 ・資格、検定について、係や各学科の担当が中心になり、取得へ向けての取組みの重要性やジュニアマイスター顕彰制度等について伝えた。また現在のポイントを確認させ、今後の受検計画や取得目標等を立てさせるとともに、補習の充実を図った。		
評 価	B	・ICTを活用した公開授業はやや敷居が高かったが、各教科とも積極的に取り組み目標を達成できた。 ・資格、検定2種類以上取得者は目標を達成できなかったが、例年程度に達した。 ・ジュニアマイスターシルバー以上の人数は昨年度の3倍となり、目標を達成した。	
学校関係者の意見	達成目標が3つ(①・②・③)あるが、①の目標が一番敷居が高く、困難である。達成目標に重みがつけられるのであれば、①が占めるウエイトは大きいと考えられる。それぞれの達成状況は、①は大幅に達成、②はやや達成していない、③は達成しているという状況から、総合的な評価はAで良いのではないかと考える。		
次年度へ向けての課題	・今年度は、教員がICTを活用して授業を行うことを主なねらいとしたが、来年度は、生徒がICTを活用し、主体的・対話的に学習に取り組むことができる授業改善を図っていきたい。 ・資格取得を通じて生徒の主体的に学ぼうとする力を育むために、クラウドサービスを活用した補習形態の検討や自分で学べる環境づくり、学習コンテンツの作成等に取り組む必要があると考える。		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

令和3年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活	
重点課題	基本的な生活習慣の確立	
現 状	・規範意識が希薄なため、安易に遅刻をする生徒がいる。 ・充実した学校生活を送るために、遅刻の防止を中心とした基本的な生活習慣の確立の必要がある。 ・体調不良での遅刻が多く、体調管理の必要がある。 ・過去の遅刻回数はH30年度216回、R元年度172回、R2年度174回であった。 ・特定の生徒が事情により複数回の遅刻をしているため、指導方法の改善が必要である。(13名で総遅刻回数の約6割) ・遅刻をしていない生徒が全体の約80%いる。 <参考>R2年度の無遅刻生徒の割合(81.7%) ※約2ヶ月間の休校あり	
達成目標	年間の無遅刻生徒の割合(通院等を除く)	
	80%以上	
方 策	・全教職員による登校指導やクラス別遅刻者統計を集計して、生徒にアクションプランの実現を呼びかける。 ・遅刻しないための事前指導を充実させる。 ・遅刻した生徒には、その都度面談し、遅刻の原因を考えさせ、解消するよう指導する。(学年との申し合わせ事項を作成し、統一した指導を行う) ・総遅刻回数も意識させるため、その日の無遅刻生徒の割合に加え遅刻数および年度の累計数を表示し、実態を理解させる。 ・度重なる生徒には、学年・学科と協力して個別指導を行う。 ・学年と協力し、朝学習への積極的な参加を促す。 ・食事、睡眠を正しくとり、体調管理の徹底を呼び掛ける。	
達 成 度	年間の無遅刻生徒の割合(通院等を除く) 81.9%(1月26日現在)	
具体的な取組状況	・生徒指導部の教職員で毎朝登校指導を実施した。 ・朝学習開始時刻(8:25)ギリギリに登校する生徒に声かけをしてきた。 ・朝学習開始時刻を過ぎて登校する生徒には厳しく指導するなどし改善を促した。 ・遅刻者には「入室許可証」を発行し、その場で遅刻理由を確認して生活指導を行った。併せて、その都度、遅刻者と面接し、現状を確認し改善策を考えさせた。 ・遅刻者には翌朝のあいさつ活動等を課して、本人の自覚を促した。 ・終業式には遅刻の状況を知らせ、遅刻は社会的に信用を失う行為だと諭してきた。併せて、無遅刻者数の割合80%以上を目標にしていることを周知した。	
評 価	A	・新型コロナウイルスの感染拡大があり、夏季休業が2週間延長になった。授業日数は7～8日間減少したが、1月26日現在、年間無遅刻者生徒割合は80%を超えており、現時点では目標を達成している。総遅刻回数は170回(1月26日現在)であり、一昨年までと変わらない。
学校関係者の意見	今後、年間の無遅刻生徒の割合を向上させるための指導を行って欲しい。そのために、基本的な生活習慣の確立についての取組を進めることや早めに生徒に目標値を周知することなどを行ってほしい。	
次年度へ向けての課題	遅刻理由については、寝坊が36.8%、体調不良が39.8%、76.6%となっている。寝坊や体調不良の原因については生徒によって異なり、それぞれの理由・原因ごとに個別の指導をおこない改善効果を高めたい。また、生徒にアクションプランの達成目標を年度の早い時期に周知し、意識の高揚を図りたい。 他の分掌とも情報交換し、遅刻者と朝食摂取、部活動取組状況等の関連性を見出し複数の方面から生活習慣の改善を目指したい。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

令和3年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の高揚	
現 状	・自分の将来や進路に対する認識が甘く、職業観・勤労観に乏しい生徒がみられる。 ・進路の選択決定において、継続的に取り組む態度に欠け、十分な対策を行わず就職試験や入学試験に臨む者がいる。 ・進学者の中に、目的の明確でない生徒や基礎学力の低い生徒がいる。 ・3学年157名の内、96名が就職を希望している。	
達成目標	3学年の就職希望の達成度（就職試験1次内定率）	
	95%以上	
方 策	・インターンシップや応募前職場見学会への参加や進路講話などを積極的に推進し、生徒の進路意識を高める。 ・学年や学科と連携し、面接指導や進学補習の充実を図る。 ・面接指導や応募書類作成など、全教職員の協力を得て、きめ細かい指導を行う。 ・入れる会社・学校から是非入りたい会社・学校を考え、各自に合った進路希望実現に向けて指導にあたる。	
達 成 度	就職試験1次内定率 89.0% 就職決定 1月25日現在 98/98人(100%) 進学第一希望合格率 90.2% 進学決定 " 53/59人(89.8%)	
具体的な 取組状況	・インターンシップ 12月 2年生全員 ・進路オリエンテーション(1、2、3年) ・進路ガイダンス(2年生2回、3年生1回) ・卒業生講話(1、2年) ・応募前職場見学、オープンキャンパスへの参加(3年) ・企業訪問、関係機関、就職支援アドバイザーとの連携による求人開拓と確保 ・就職、進学に向けての準備や指導(面接、作文、小論文、進学補習)	
評 価	D	就職試験1次内定率は目標を達成できなかった。 県内有効求人倍率が4.3倍から6.2倍に上がる中、昨年は9名(113名中)が1次で不合格だったが、今年度は10名(98名中)不合格だった。就職希望者数が減少しているのに、不合格人数はほぼ変わらなかったため、評価基準は現状より悪くなったとした。
学校関係者の 意見	・就職希望者の中で、公務員は4名となっているが、その内訳を教えてください。 自衛官2名、消防署員1名、警察官1名となっている。	
次年度へ 向けての 課題	・自ら進路決定する意識が弱く、自分の進路を決めかねている生徒がいる。進学も含めて早くから進路意識を持たせることが必要である。 ・企業の特徴、企業が求める人材、職種等を分析し、適切な進路情報を提供することによりミスマッチの防止に務める。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

令和3年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 4 -		
重点項目	特別活動	
重点課題	部活動加入率の継続的な向上と、部活動の活性化	
現 状	部活動の加入率は昨年度12月の時点で92.7%であったが、本年度は4月の時点で未確定である。継続して部活動に参加し、成績向上を図るため積極的に練習に取り組んでいる生徒は多いが、部活動を欠席しがちな生徒もいる。積極的に参加することの意義から、加入率の維持・向上を図るのはもちろんのこと、部活動の活性化のために、活動内容の改善も必要である。	
達成目標	①部活動加入率	②部活動加入者で積極的に活動している生徒の割合
	90%以上 (前年度 92.7%)	85%以上 (前年度 7月 89.7% 12月 83.4%)
方 策	1、2学期末に活動状況を調査し、担任が状況を把握しやすくするとともに、保護者会等で保護者と情報交換することで、生徒への啓発を促す。 - 夏季休業時の活動の重要性を周知し、各顧問が参加状況を把握することで、生徒の活動状況を管理し、意欲の低下を未然に防ぐ。 - 部活動を辞めたい生徒に対しては、担任や前顧問が他の部活動を勧める働きかけを行う。	
達 成 度	部加入率 7月 89.4% (1年 96.9%, 2年 90.4%, 3年 82.3%) → 12月 93.1% (1年 99.2%, 2年 87.7%) 部活動加入者で積極的に活動している生徒の割合 7月 84.3% (1年 82.5%, 2年 84.8%, 3年 85.4%) → 12月 80.5% (1年 76.7%, 2年 84.4%)	
具体的な 取組状況	- 本校の事情により不参加する大会や、生徒本人、保護者の意向により不参加したり、大会そのものが中止になるなどがあり意欲を保てない状況があった。再開にも制限があった。 - 新入生について今年度も全員加入とし、学校行事として部紹介や入部式を行った。 1、2学期末に部顧問により評価された部員の活動状況とコメントを併せて学年・担任に提供し、面接や保護者懇談会での個別指導などに生かせるよう配慮した。 - 部活動の指針に合わせて、無理のない活動になるよう努めた。	
評 価	D	- 部活動の加入者割合については、概ね目標をクリアしている。 - 積極的に活動している生徒の割合が目標達成できなかった。 3年生は落ち着かない状況であったがおおむね例年通りの活動ができた。 - 合宿や練習試合、県外遠征など意欲的に活動はできなかった。部活動は、モチベーションを保ちにくかったのではないかと思う。
学校関係者の意見	新聞報道を読んで魚津工業高校の活躍をいつもうれしく思っている。	
次年度へ 向けての 課題	部活動加入率、部活動加入者で積極的に活動している生徒の割合を向上し、部活動の活性化につなげたい。1、2学期末に活動状況調査を行い、その結果を部顧問だけではなく、担任とも共有し連絡を密にしたい。保護者とも保護者会等を通して部活動に関する情報交換をして生徒への啓発を促したい。	

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状より悪くなった)

(様式5)

令和3年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 5 -		
重点項目	学校生活	
重点課題	規則正しい生活リズムの定着	
現 状	・食生活・睡眠・運動など生活習慣に問題をもって入学してくる生徒が多い。 ・特に夜型の生活や食習慣の偏りが、学習意欲の低下や肥満など心身の健康と関連し、学校生活に悪影響を及ぼしている。	
達成目標	朝食摂取率（第2回調査（12月）における摂取率）	
	95%以上を維持する。	
方 策	・生活習慣調査を年2回実施し、各自の生活を振り返らせる。生徒保健委員会の広報で啓発する。また、保護者にも「保健室通信」等で知らせ、協力をお願いする。 ・問題があると考えられる生徒には、個別指導を実施する。 ・担任や部顧問との連携を図り、保護者会等で改善を呼びかける。 ・外部講師を招き、集団保健指導を実施する。	
達 成 度	朝食摂取率（ほとんど毎日） 92.1%（7月）→ 93.0%（12月） （参考 昨年度朝食摂取率 91.7%（6月）→ 93.9%（11月））	
具体的な 取組状況	・生活習慣調査を7月と12月に実施し、生徒自身の生活習慣について見つめさせる機会を設け、朝食の摂取状況が良くない1年生13名には、保健部による個別指導を実施し、摂取できない理由に応じた改善方法を生徒自身に考えさせた。 ・担任や部顧問に調査結果を報告し、1学期末・2学期末の保護者懇談会等で家庭への協力や連携をお願いした。 ・1年生を対象にした「健康を考える日」に管理栄養士を講師として招き、朝食の重要性や食事バランスについて講演会を実施した。 ・「保健室通信」、生徒保健委員会広報「わかば」で、保護者・生徒に朝食摂取の重要性について啓発した。 ・生徒が自分で簡単な朝食を作れるように、2学年の家庭科の授業で「朝食の献立」について学習した。グループごとに献立を考案し、パワーポイントにまとめて発表、さらにフォームズ投票の結果から、実際に朝食の献立を調理実習で作り試食した。	
評 価	C	・第1回調査で個別指導した生徒に、やや改善が見られた。 ・朝食の内容について調査した結果、牛乳を全く飲んでいない生徒が41%と多く、毎日飲んでいる生徒は15%であった。 ・主食（ごはん、パン）だけを摂取している生徒が目立っている。
学校関係 者の意見	・評価の仕方の見直しをしたらよい。 ・生徒たちの生活リズムが、より良くなるように取り組まれている。	
次年度へ 向けての 課題	朝食摂取率の向上のため、講演会、教科、部活動顧問、保健部員など多方面からの地道な指導を行うことで、生活習慣全体の改善につながると考えている。次年度も協力を仰いでいくことが必要である。	

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった ）